

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日:

事業所名: 児童発達支援 児童発達支援・放課後デイサービスまなびくらぶ武蔵小杉

対象人数(保護者) 17人 回答者数 8人 回収 47.1%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	① こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7			1	実際に活動している場面を見ていないので分かりません。	動線を整理したり小グループ制を導入することで一人ひとりがゆっくりそ過ごせるよう努めます。
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1		1	児童発達支援と放課後デイが並行して行われており、流動的であると考えられるため。	人員配置基準を遵守しつつ、活動内容に応じて職員間で連携を強化し安全な支援体制維持します。
	③ 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は障害特性に応じて配慮が適切になされていると思いますか。	5	1		2		視覚支援等の工夫を活かしつつ、音や光などの感覚配慮を深め、個々に最適な環境づくりを推進します。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	2				日々の徹底した清掃や整理整頓を継続しつつ、活動内容に合わせた柔軟な空間作りを強化します。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な支援の提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に 応じた専門性のある支援が 受けられていると思いますか。	6	1		1		日々の丁寧な観察と対話を基盤に、最新の知見を取り入れた専門的な関わりで、個々の特性を最大限に伸ばします。
	⑥	事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7	1				計画に基づく確実な支援を実践しつつ、日々の変化に合わせて柔軟に対応します。
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	7	1				日々の対話からニーズを的確に捉え、客観的評価に基づき一人ひとりに最適な個別支援計画を作成・実施します。
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	1				ガイドラインに沿った多角的な支援を徹底し、本人や家族の願いを反映した具体的に実効性の高い計画を策定します。
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7	1				計画の内容を確実に日々の活動へ反映し、一人ひとりの成長に合わせたきめ細かな支援を継続するとともに、定期的なモニタリングを通じて計画の有効性を常に高めていきます。
	⑩	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6			2		お子様の興味や成長に合わせ、新しい遊びや体験を柔軟に取り入れた活動を工夫します。
	⑪	プログラム活動等で地域の人たちとの交流の機会が設けられていますか。	5			3		外出活動のプログラムを通して地域の皆様と交流を広げ、社会との接点を増やします。
	⑫	送迎は正しく行われていますか。	7			1		安全運転と添乗員の配置を徹底し、マニュアルに基づいた確実な乗降確認を行うことで、日々の安心な送迎を継続します。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑬	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	⑭	丁寧な支援内容の説明がなされましたか。	7	1				日々のコミュニケーションを大切にしながら、支援の目的や具体的な内容を分かりやすくお伝えし、常に信頼関係を深める説明に努めます。
	⑮	事業所では情報提供の機会等が行われていますか。	7	1				定期的な面談やサービス提供記録の共有や活動記録のお知らせを通して、事業所の活動内容やこどもの様子を積極的に発信し、密な情報交換に努めます。
	⑯	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	8					
	⑰	定期的に面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	2				日々の対話に加え、定期的な面談で悩みや目標を共有し、専門的な視点からの助言を通じて、ご家庭と一緒に歩む支援を継続します。
	⑱	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7			1		いつでも声が届く体制を周知するとともに、頂いたご相談には迅速かつ誠実に対応し、信頼関係の維持に努めます。
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8					
	㉑	定期的にHUGやホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8					
㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	1				プライバシーポリシーの遵守を徹底し、個人情報の適切な保管と職員教育を継続することで、情報の安全管理と適切な取扱いに万全を期します。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の 対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7			1		各種マニュアルを完備し、入所時に丁寧に説明するとともに、定期的な避難訓練やシミュレーションを徹底することで、緊急時にも迅速かつ適切な対応ができる体制を整えています。
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1		3		地域防災計画に基づき、火災や地震などの不測の事態を想定した避難・救出訓練を定期的実施しています。子どもたちが安全に避難できるよう、職員の役割分担を明確にし、必ず振り返りを行うことで、災害時の対応力の向上に努めます。
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	3				安全管理計画の周知やヒヤリハットの共有を徹底し、ハード・ソフト両面での安全対策を講じた上で、子どもたちが安心してのびのびと活動できる支援環境を維持します。
	㉖	事故等(怪我等を含む)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7			1		事故や怪我が発生した際には、速やかに保護者様へお伝えし、発生時の具体的な状況や処置、その後の経過について誠実に説明を行います。再発防止策も含めて共有することで、安心してお子様を預けていただけるよう透明性の高い対応に努めています。
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	7	1				一人ひとりの心に寄り添う温かな関わりを徹底し、お子様が自分らしく笑顔で過ごせる環境づくりに努めます。
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	5	2	1			お子様の興味に合わせた遊びや成功体験を大切に、「また行きたい」と思える楽しい時間を提供し続けます。
	㉙	ソーシャルスキルトレーニング(SST)は役に立っていますか。	7	1				個々の課題に応じた場面設定を行いスモールステップで成功体験を積み重ね自信と社会性の向上繋がるよう努めます。
	㉚	事業所の支援に満足していますか。	7	1				お子様の成長を第一に考えたいきめ細やかなサポートと、ご家族に寄り添う誠実な対応を常に心がけています。今後も信頼に応え、心から満足いただける質の高い支援を追求し続けます。

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をすることがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「児童発達支援計画(個別支援計画)」は、児童発達支援を利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されています。